

# 「今、ニコニコ」から創りだす探求型の学び

片岡 康子

外でじゃれあって遊ぶ子どもの姿が、町から消えて久しくなりました。内遊びも、もっぱらゲームが主流です。体が開かれ躍動していた子どもたちはどこにいったのでしょうか。

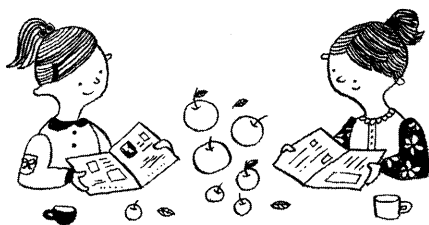
「まずは、自分で創ってみな。」

この、おやじの口癖が、俺の生きる姿勢を創った。

「今日は、なにか楽しいことあった？」

この、おふくろの口癖が、俺のワクワクセンサーを創った。

今、若者に人気のノンフィクション作家であり、自由人の高橋歩（一九七二年、東京生まれ）の最新作『愛しあおう。旅にしよう。』（A—Works 二〇〇八年）にこんな一節があります。彼は二〇歳のとき、大学を中退して起業。その後、自伝を出すために出版社を設立したり、沖縄へ移住して自給自足のビレッジを運営したり、世界一周したりの自由人。彼も、かつて躍動していた子どもたちの一人です。大好きな



ことに熱中して、達成する喜びと楽しさを体験した子どもは成長して、冒険の日々というわけです。

さて、体が開かれ躍動する子どもの姿を取り戻すために、今、教育はどのような見直しをしているのでしょうか

この原稿を書いている現在、改訂作業中の学習指導要領は「知識・技能」が重視されるものになるのではないかと想定されます。と言いますのは、平成元年改訂のコンセプトが「新しい学力観」でした。どちらかという目に見えにくい「関心・意欲・態度」（見えない学力）に重点が置かれ、具体的には「楽しさ」が重視されました。そして平成十年度改訂の現行学習指導要領では、「生きる力」がコンセプトとなり、主体的に問題を解決する能力という観点から「課題解決学習」や「めあて学習」などが重視されました。評価の観点から言いますと「思考・判断」に対応します。

このように、「関心・意欲・態度」から、現行の「思考・判断」へと重点が変わってきて、そうすると次は目に見える学力ということで「知識・技能」が重視される指導要領になるのではないかということです。つまり「知識・技能の活用」と「探求活動」を通して、意欲はもとより思考力・判断力・表現力を高めて生きる力を育成するということにあります。

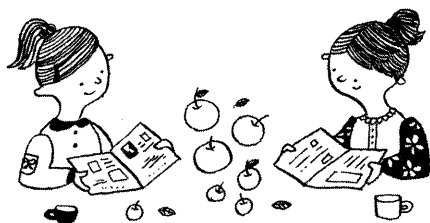
これまでのめあて学習や楽しい体育は、楽しさという動機づけを大切にしながら、結果として技能と体力が身に付くという表現をしてきました。しかしこれからは、楽

しさを大切にしながら「今、ここ」というプロセスの中で、子どもたちが技能や体力も同時に身に付けていかなければ、学校としての社会的説明責任を果たすことができないということです。知識・技能の習得のみに重点があるのではないことはもちろんのことであり、新しい学習過程の考え方は、「習得」しながらそれをうまく「活用」するという円環運動を繰り返しながら、その学習過程の総体が「探求」型の学びになっているという構造で押さえることが必要になっているのです。

注目される学習形態は、形のあるものを獲得していく課題解決学習ではなく、形を創造していく課題解決学習です。つまり、「今、ここ」に生きている自分に端を発して、常に、形を生み出していくことのできる学習、「今、ここ」を大切にしながら創りだし、外に向かって表現していく学習です。

しかし、これは新しい考え方というよりも、ダンスの学習そのものであり、だからこそ、今、ダンスは注目を集めているといえましょう。

現行学習指導要領では、体育は「心と体を一体としてとらえる」という目標設定に伴い、「体ほぐし」と「リズムダンス」が学習内容に入りました。その結果、体育授業の様相はかなり変化したとみています。特にダンス学習の間口は確実に広がり、多くの子どもたちや先生たちが踊りだしました。ダンスは多様な個性や能力の違いを生かして、かかわりをほぐし、子どもたちは確実に変わっていきます。教師が変われば、子どもも変わるのです。ダンス学習は、今もつとも子どもに不足して



いる身体表現によるコミュニケーション能力を豊かに高めていると見ています。

体育においては、ダンス学習は探求型学習のモデルとみなされ、身体表現によるコミュニケーションとしてのダンス学習の価値が、高く評価される状況の中で、昨年の二〇〇七年、ダンス・武道が中学校において必修になるという学習指導要領改訂のニュースが報じられました。つまり、ダンスは、幼稚園の「表現」、小学校の「表現リズム遊び」（低学年）、「表現運動」（中・高学年）に続いて中学校二学年まで、男女が必修で学ぶ内容となります。平成元年の改訂において、ダンスは女子に限る、武道は男子に限る、という男女別の文言が削除され、中学・高校において、ダンスを男女ともに選択履修できるようになってから二回目の今回の改訂で、その他の運動領域と同様に、ダンスも男女必修となるのです。教育史上初めての、特筆すべきことです。施行までには、男女ともにすべての教員が指導できるような指導方法の提示とともに指導力向上の手だてが必要であると考えます。わたくしもそのための努力をしているところです。

基本的な身体感覚、体力、探求力などは、幼児から低学年までに養われることから、幼稚園の「表現」において、子どもたちは、「今、ここ」から創り出す探求型の学びをいっぱい体験してほしいと思います。そして毎日、子どもたちのエネルギーがダイナミックにスパークしてほしいと思います。

（お茶の水女子大学名誉教授）